

野田 九条通信

2010年11月号

No.59

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ
http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/

野田・九条の会 秋の講演会

全国ユニオン会長 鴨桃代さんが語る

おびやかされる生存権

～働く現場から平和を考える～

11月23日(火・祝) 1時開場

1時半～1時50分 西洋のこぎり音楽

演奏：木本誠二さんの西洋のこぎりから出る哀愁を帯びた音楽をお楽しみください。

2時～4時 鴨桃代さん講演・質問

野田市中央公民館講堂

賛同金 500円

この講演会と九条の会アピールを印刷したチラシを野田市全域に配布するための費用に充てます。賛同チケット購入にご協力をお願いします。

鴨桃代講演会に全力

皆様のご協力を

野田・九条の会は10月9日定例会を開き、11月23日に開く鴨桃代さんの講演会の内容など話し合いました。今、派遣やパートなど不安定な労働環境で働いている人は身近にもたくさんいます。会社間委託で非正規雇用の人を増やしています。

このような閉塞感の中

野田・九条の会は10月9日定例会を開き、11月23日に開く鴨桃代さんの講演会の内容など話し合いました。今、派遣やパートなど不安定な労働環境で働いている人は身近にもたくさんいます。会社間委託で非正規雇用の人を増やしています。

から戦争への道が作られていくのではないでしょう。今回の企画はぜひ若い現役世代の方々に来てほしいと宣伝に全力を挙げていきます。

九条の会の賛同者の方々はぜひお友達、お知り合いに声をかけてください。(詳しくは左記)

人権メチャメチャ 都内で中国排斥の右派系デモ

尖閣諸島問題で中国との関係が取りざたされています。テレビでは中国のデモばかりが放映されますが、10月16・17日、東京で千々二千人規模の右派系デモが行われていました。

人は帰れ」「不浄の民族」などとひどい言葉で怒鳴っていました。それを警官隊が黙ってデモ隊を護っているのです。日の丸の旗を多数なびかせ行進しているのは若い人が多く見受けられました。

私達は世界中の人々と仲良くしていこうと、憲法で基本的人権、平和主義を掲げているはず。今の日本で、東京で、堂々とこんな光景が許されるのでしょうか、

許せません。詳しくはパソコンで動画(YouTube)も観られます。



今月の 九条の会

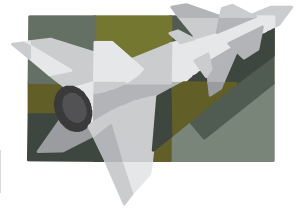
11月9日(火) 4時～5時
チラシ配布 川間駅南口

11月13日(土)
櫛のホール4階研修室
2時～3時 学習会
「公安警察」
3時～5時 定例会

11月23日(火・祝) 1時半～4時
鴨桃代講演会 上記参照



許せぬ武器輸出3原則見直し



「武器国際共同開発」参加目指す軍需産業界

ようやく恵まれた10月の青空に

連日、ただならぬ轟音を響かせた戦闘機やヘリコプターの飛来が続いた。24日、自衛隊朝霞駐屯地で行われた観閲式のための訓練飛行だった。この日、菅首相は軍事力を強化させている中国情勢などに触れた上で「多様な事態に実効的に対処し得る態勢を常にとっておく必要がある」と訓示し、2010年末までに防衛力を強化した防衛計画大綱を策定することを強調している。大綱改定に向けては、武器輸出3原則の扱いを議論していくことも閣議決定しており、看過できない事態だ。

憲法9条の精神にのっとりた武器輸出三原則

武器輸出3原則は、アメリカのベトナム侵略に対する日本の軍事協力を批判する反戦のつよいうねりに押されて、佐藤首相が1967年4月の国会で表明したもので、武器の輸出を〈1〉共産圏諸国〈2〉国連決議による武器などの輸出禁止国〈3〉紛争当事国またはそのおそれのある国に対しては認めないという内容である。さらに76年に三木内閣が、「平和国家としての我が国の立場から禁輸対象国以外の国にも憲法の精神にのっとり武器の輸出を慎む」との「政府統一見解」を発表し、事実上武器の輸出は全面禁止となったのである。

例外化による禁輸緩和を計った日米政府・財界

ところがその後、中曽根内閣の83年にアメリカ向け武器技術供与、小泉内閣の2004年にはミサイル防衛の日米共同開発・生産が官房長官談話により、それぞれ例外化されて抜け穴が開けられてきた。

これを突破口に、憲法改悪と併せてこれまでの「自らが力の空白となって我が国周辺地域の不安定要因とならないよう、独立国としての必要最小限の防衛力を保有する」という「基盤的防衛力構想」を大きく踏み越える「国際武器共同開発」への参加、三原則のなし崩し的緩和、撤廃を公然と求め、軍需産業の完全復活、活性化を果たそうとする動きが加速し、現在に至っている。

止めよう戦争する国への道

日本の将来を大きく左右することになる今回の三原則の扱いをめぐる議論の行方。わたしたちは米国のような軍需産業が大きな発言力を持ち、利潤追求と市場拡大のために戦争をする国になってしまう危険な道に踏み込むことを、何としても食い止めなければならない。

「『日本は武器を輸出しない』を決まり文句に武装解除を進め、掛け値なしに説得力があった。三原則は国益にかなう」というアフガニスタンで紛争処理した伊勢崎賢治氏の指摘は重い。

ぜひご参加ください。

けやき9条の会 学習会

「尖閣諸島問題を考える」

11月17日(水)午後6時～9時

樺のホール4階 研修室

「尖閣諸島問題、どう思ってる？」

「うーん、あんまり良くわからないのだけれども、なんとなく中国ってしょうがないなという感じ。」

こんな会話から、わたしたちが潜在的に持っている中国観が話題になりました。見解の対立する領土問題、冷静で平和的な解決をしようとするのが肝要。まずはそれぞれが情報や資料を持ち寄って勉強しようということになりました。

島をめぐる歴史。「無主地先占」の権利。台湾、中国、日本の漁民のこと。資源開発のこと等々。勢いを増す防衛力強化の声、危機感を煽り立てるマスコミ、右翼の暴力的中国人排斥行動など状況はよくありません。

大勢で勉強し意見交換をしませんか。